

平成 30 年度事業 地域人材カフル活用プラットフォーム構想について

1 取組の背景

- ① 2020 年度末に 3 万 7 千人の人口規模を維持するという目標に向けて、「転出超過の是正」は市政の最重要課題
- ② 転出のきっかけとしては「就職・転職」や「通勤時間の短縮」など、仕事に関する理由が大半を占めており、地域における「仕事や収入の場の不足感」を払拭することが不可欠
- ③ 一方、市内の企業・事業所では近年、人手不足が叫ばれており、本来、相反する現象である「仕事不足」と「人手不足」が同時に発生している状況
- ④ このような現状は、長年の歴史の中で形づくられた地域の社会構造・産業構造と深く関連しており、地域創生の実現に向けた本質的な課題でもある

行政による対症療法的な施策だけでなく、**地域全体で中・長期的な視点に立って構造改革に取り組む事が重要！**

2 取組の目的と推進体制

経済産業界、教育機関、金融機関、NPO 等、報道機関、行政機関など、様々な関係者が「地域人材カフル活用プラットフォーム」を形成し、次の目標に向けた取組を推進

- ① 地域人材の育成・発掘と地域外からの人材誘致による**地域産業の強化、地域経済の活性化**
- ② **全ての市民が、その希望に応じていきいきと働ける社会環境の実現**
- ③ 移住・定住の促進による**持続可能な地域社会の実現**

推進体制(裏面参照)

- (1) 地域人材カフル活用ラウンドテーブル(円卓会議、多様な主体の参画を実現)
- (2) 宍粟市版若者会議(若者のニーズを引き出し、地域産業への関心を高める)
- (3) 地域人材カフル活用プラットフォーム事務局(庁内体制)

3 平成 30 年度の具体的な取組

- (1) 総合的な仕事の相談窓口の設置
潜在的な労働人材や移住・定住希望者に対して効果的に情報発信するため、既存の取組を再構築し、「総合的な仕事の相談窓口」として機能を拡充
- (2) 地域就活応援キャンペーン
地域が一体となって、都市部の学生・若者向けに市内企業や地域暮らしの魅力を発信するキャンペーンを展開
地域就活ポータルサイト/PR 資材(紙媒体)/就職・転職フェア/インターンシップ 等
- (3) 宍粟市人材確保・定住促進基金の設置と運用
市が基金を造成し、民間事業者からの出捐も受けながら、円卓会議等での議論を踏まえた事業計画を適時実行

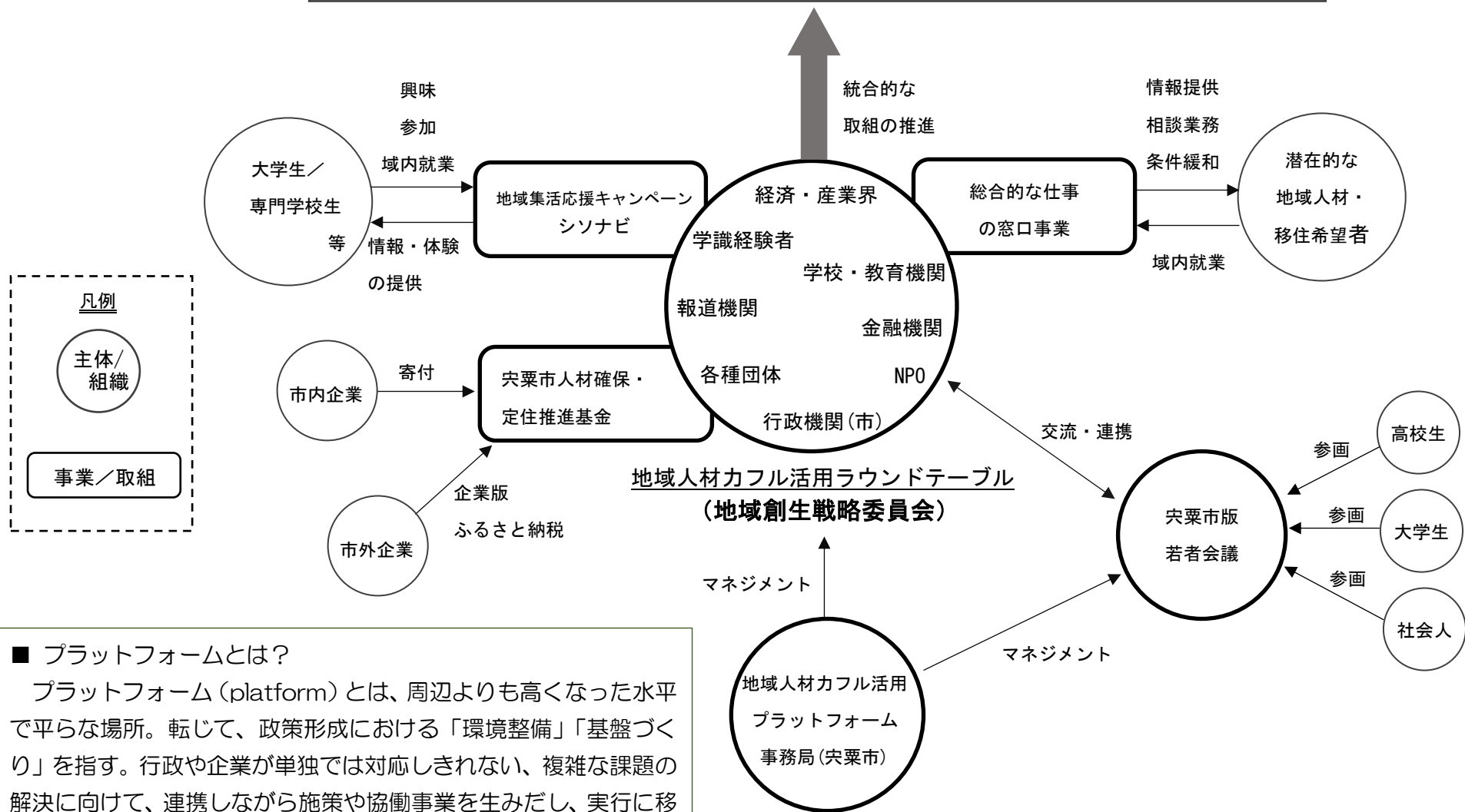
【参考意見】

- これまでも過疎対策、地域活性化の名のもとに様々な施策が実施されてきたが、人口減少の歯止めになっていない。(～中略～)何か問題が発生したとき、まず何よりもその現場に立ち戻ることが必要である。なぜなら、現場には問題を解くための鍵となる生の情報が隠されているからである。【地域創生戦略委員会 委員長】
- 昨年、東京からリターンで帰ってきた人の話ですが(～中略～)地元では家賃は不要ですし、米も実家で作っている。野菜は近所からもらうという事で、収入が減っても出て行くお金が少ないので、充分生活できるとの事でした。こういった事も地域の魅力であると思います。【地域創生戦略委員会 副委員長】
- (広告やハローワークの)求人情報をみても、子どもをみながら働けそうな職場が少ないと感じています。例えば勤務時間を 1 時間短縮してもらえれば保育園のお迎えに間に合うので、そういった相談に応じてもらえる職場があればありがたいと思います。【TM 参加者】
- 条件が折り合わないことも含めて、働く場所がないのが人口減少の根本的な原因ではないでしょうか。片道 1 時間半までが通勤圏内が限界だと思います。【TM 参加者】
- (会社を経営しているが)市に無料職業紹介所があることを知りませんでした。市の広報誌やホームページでは情報を知っている人しか見ないので、事業所へダイレクトメールすればより情報を伝えることが出来ると思います。【TM 参加者】

■ 地域人材カフル活用プラットフォームのイメージ

取組の目的

- ① 地域人材の育成・発掘と地域外からの人材誘致による地域産業の強化、地域経済の活性化
- ② 全ての市民が、その希望に応じていきいきと働ける社会環境の実現
- ③ 移住・定住の促進による持続可能な地域社会の実現



■ プラットフォームとは？

プラットフォーム (platform) とは、周辺よりも高くなった水平で平らな場所。転じて、政策形成における「環境整備」「基盤づくり」を指す。行政や企業が単独では対応しきれない、複雑な課題の解決に向けて、連携しながら施策や協働事業を生みだし、実行に移していくための場づくりともいえる。